

【解 答】

1. 胃悪性リンパ腫

解説：

胃原発の悪性腫瘍のうち90%以上は胃癌であり¹⁾、胃原発の悪性リンパ腫は1~8%ほどと比較的まれであるが、節外性非ホジキンリンパ腫の中では消化管は好発部位であり、消化管悪性リンパ腫に限ると60~70%が胃原発である²⁾。症状としては腹痛の頻度が高いが、無症状のものも少なく、出血や穿孔をきたすこともある³⁾。

内視鏡技術の進歩にともない、内視鏡医が診断する消化管悪性リンパ腫の発生率は増加している⁴⁾。胃悪性リンパ腫の内視鏡所見は、浅い潰瘍形成のある薬剤起因性潰瘍に類似するものや、深い潰瘍形成のある進行癌に類似するもの、腫瘤を形成するGISTに類似するもの、スキルス胃癌やメネトリエ病に類似する巨大皺襞を呈するものなど多彩であり、本邦では八尾分類や佐野分類による肉眼型分類が使用されている。組織学的には70~80%が粘膜関連リンパ組織(MALT)リンパ腫やびまん性大細胞型B細胞リンパ腫(diffuse large B cell lymphoma; DLBCL)の節外辺縁帯リンパ腫であり²⁾、組織型による特徴的な内視鏡所見の報告がされている。胃MALTリンパ腫では0-IIc早期胃癌様の不規則な表層びらんや、浅い潰瘍、胃炎様の拡大した皺襞、胃内結節や胃壁肥厚などの表層型の所見を呈する例が多い⁵⁾。胃DLBCLは限局した腫瘤形成が多く、2型進行癌に類似した潰瘍を形成することもある^{3,4)}。今回の症例は八尾分類における腫瘤形成型(佐野分類における潰瘍型)であり、正常粘膜に覆われた潰瘍形成をともなう腫瘤で、潰瘍辺縁には不整所見を欠く耳介様周堤を形成しておりDLBCLを疑う所見であった。今回の症例のように潰瘍形成をともなうものに対しては、壊死組織ではなく潰瘍周縁から組織を採取し確実な組織型を診断することが肝要とされている³⁾。免疫染色からDLBCLの診断となり、内視鏡所見と矛盾しない結果であった。

胃DLBCLの治療はステージにより異なり、

*Helicobacter pylori*の除菌により寛解が得られた症例も報告されている^{6,7)}。今回の症例は胃組織の病理診断より*Helicobacter pylori*陰性であり、Ann Arbor分類ステージIVの診断からR-CHOP療法が開始され、現在も治療継続中である。

胃悪性リンパ腫には多彩な内視鏡所見があり、組織型により治療法と予後が大きく異なるため、他の胃疾患との鑑別や正確な組織診断が重要となる。そのため、内視鏡医には形態学的特徴を十分に理解した上で検査および診断を行うスキルが必要である。

参考文献：

- 1) 小野尚子, 小野雄司, 坂本直哉: 胃悪性リンパ腫の診断と治療. 日本消化器病学会雑誌 114; 1948-1956: 2017
- 2) Nakamura S, Matsumoto T: Gastrointestinal lymphoma: recent advances in diagnosis and treatment. *Digestion* 87; 182-188: 2013
- 3) 中村昌太郎, 松本主之: 消化管悪性リンパ腫の診断と治療. 日本消化器内視鏡学会雑誌 56; 3599-3606: 2014
- 4) Kanno T, Katano T, Shimura T, et al: Characteristic endoscopic findings of gastrointestinal malignant lymphomas other than mucosa-associated lymphoid tissue lymphoma. *Acta Gastroenterol Belg* 85; 477-483: 2022
- 5) Violeta Filip P, Cuciureanu D, Sorina Diaconu L, et al: MALT lymphoma: epidemiology, clinical diagnosis and treatment. *J Med Life* 11; 187-193: 2018
- 6) De Francesco V, Manta R, Marmo R, et al: Efficacy of *Helicobacter pylori* eradication in patients with diffuse large B-cell lymphoma of the stomach: A systematic review. *Eur J Haematol* 109; 643-647: 2022
- 7) Kuo SH, Yeh KH, Wu MS, et al: *Helicobacter pylori* eradication therapy is effective in the treatment of early-stage H pylori-positive gastric diffuse large B-cell lymphomas. *Blood* 119; 4838-4844; quiz 5057: 2012

2023年4月

本論文内容に関連する著者の利益相反
：なし

出題：櫻井美代子（帝京大学内科）
小田島慎也（　　〃　　）
山本　貴嗣（　　〃　　）